

成田っ子 通信

～チーム成田のみなさんへ～



先生方の活躍ぶりや授業の様子、先生方へのメッセージを載せています。

R 3.6.23 No.4
文責 新井麻起

本校では学校研究課題を「個別最適な学び」と「共同的な学び」の一体化を目指した授業の創造～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業実践～とし、校内の研究授業を行いました。今回は6年の津久井教諭による単元を通しての社会の授業です。

教科：社会 単元名「縄文のむらから古墳のくにへ」 6年生1組 津久井教諭

縄文時代と弥生時代の暮らしを調べ、弥生時代は米作りのおかげで生活が安定し、平和な時代だった、と思っていたところ、様々な資料から弥生時代には争いがあったことを発見する。そして何のために争いをしていたのかを班内で話し合い、その原因をさぐる。

【前時の復習と資料の読み取り】



前時では弥生時代は米作りのおかげで生活が豊かだった、ということ踏まえて、二つの遺跡の写真から弥生時代では何が起っていたのかを発見する。

【資料からの読み取りと新たな発見】



C:「足の骨が折れているぞ？」 C:「背骨に穴があいている？」

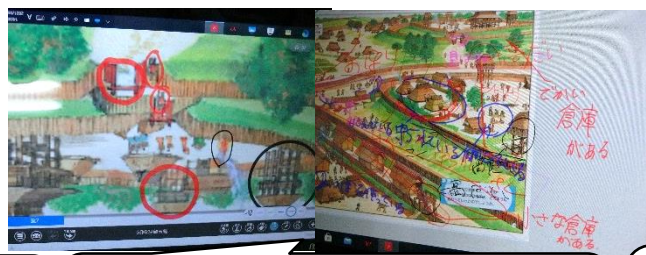
C:「拡大してみると矢じりがある、ということは・・・」 C:「弥生時代に争いがあった??」

【一斉表示からの選択】



全員の児童の画像を一斉に表示し、その中から挙手した児童の画像を選び、発表させる。

【弥生時代の村での争いが起きていた証拠の発見とその理由を考える】



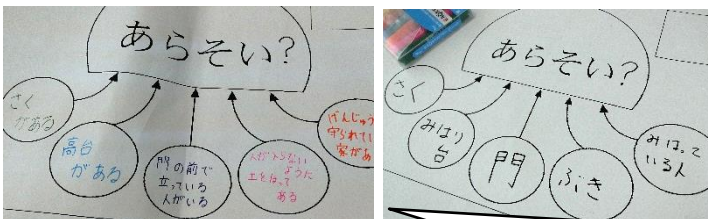
教師が弥生時代の村の資料をタブレットに送信し、その資料から争いがあったと思われるところに印をつけ、その理由も話し合う。

【情報の共有】



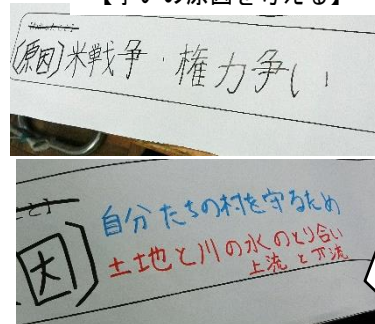
印をつけたところは班内の児童だけ見えるように設定しておく。児童は発見と思考を繰り返すことにより、考えを深めていく。

【クラゲチャートによる情報の整理】



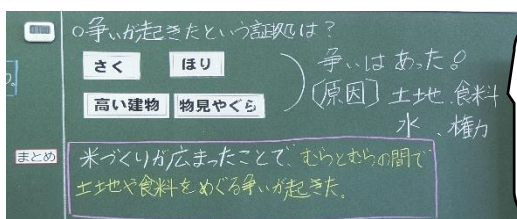
C:「見張り台がある」「見張っている人がいる」「さくがある。」「門の前に人が立っている」「武器を持った人がたっている」

【争いの原因を考える】



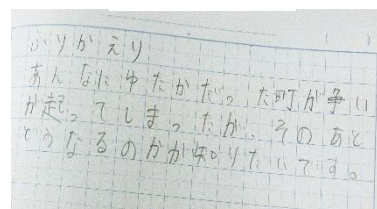
C:「米がつくられるようになってから、不作の時などは米の奪い合いから」「集団の中にえらい人がいて権力を争っていたのでは」「自分たちの土地を守るため」「川の水の取り合い」

【まとめ】



米づくりが広まったことでむらとむらの間で土地や食料などをめぐる争いが起きた。

【振り返り】



C:「争いはいつまで続くのだろうか」「この後どうなるのだろうか」

